

# 神戸の風色

KOBE • FUSHOKU

堀内初太郎 NO. 60





感

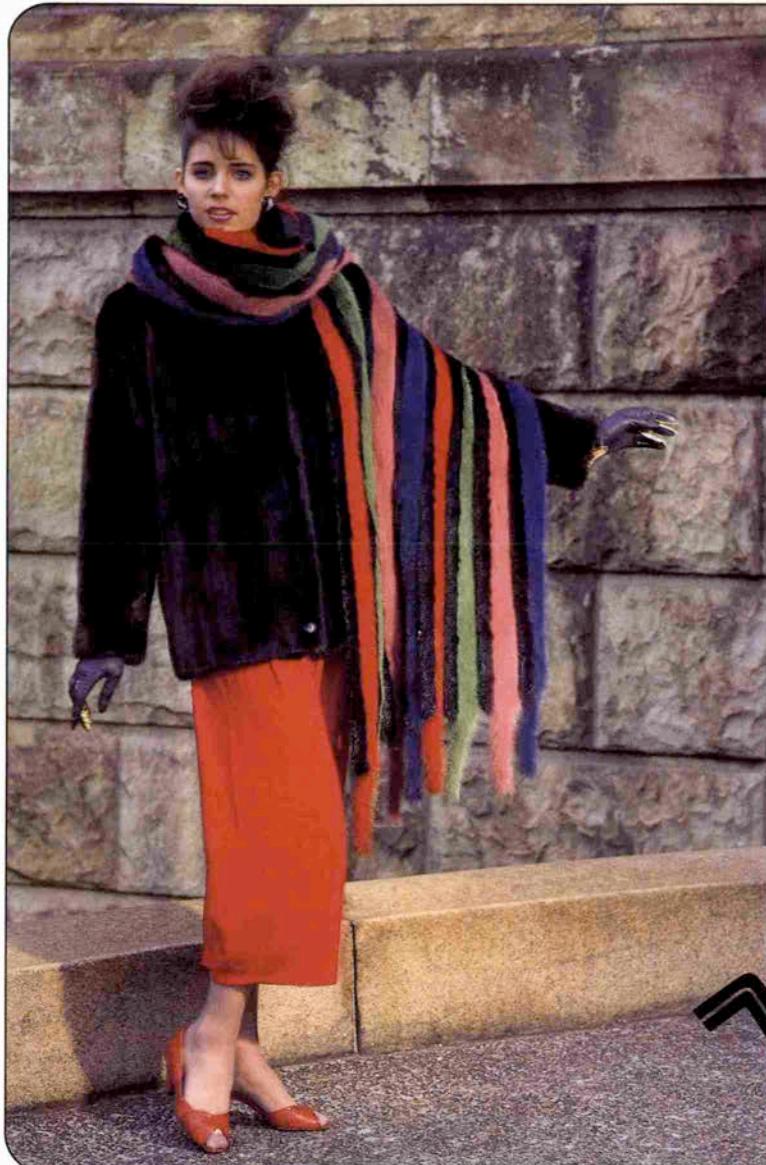
神戸



本社  
神戸

- 商業
- ディ
- マネ

こん  
海が  
神戸  
そん  
「MA



'84'85

ベニーファーコレクション

キラキラと  
輝く女に  
なあれ

ブラックグラマ ミンクジャケット N.Y.  
&  
ダイドミンク ビッグストール  
各色1本ずつ取りはずしが出来ます。  
ベニーオリジナル／JAF出展作品



SINCE 1959

最高の品質と信用を誇る毛皮専門店

ベニーフ  
毛皮店

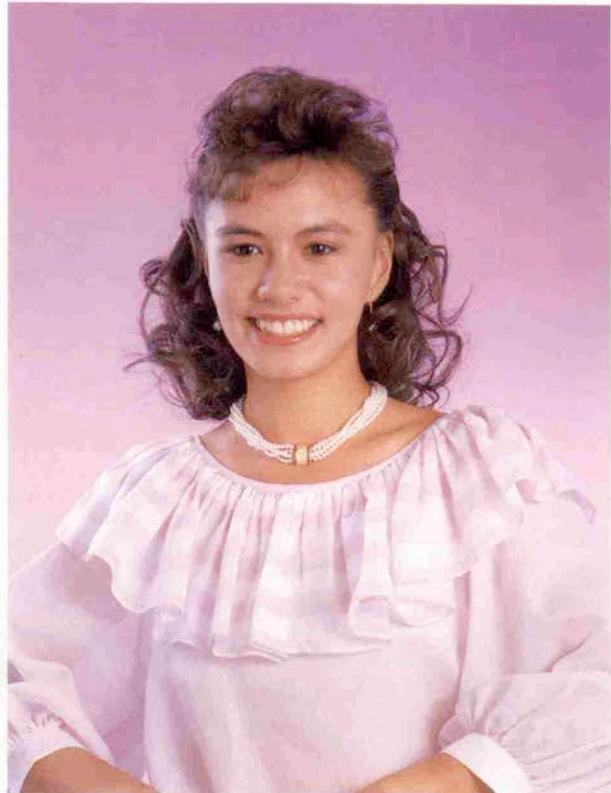
〒651 神戸市中央区御幸通8丁目1-6

神戸国際会館1階

TEL (078) 221-3327(代)

# Merry Christmas

・'84年のフィナーレはパールの輝きで。  
クリスマス★プレゼントセール  
12月21日～12月26日  
●ご来店の方にステキなプレゼントをさしあげます。  
●選びぬかれた商品を豊富にとり揃えて  
お待ちいたしております。



WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls  
**KINOSHITA PEARL CO.,LTD.**

Order Salon

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078) 221-3170

10:00AM～6:00PM (木曜日定休)



毛皮も個性で着る時代  
磨かれてますか、貴女の感性。



「ムラタ甲子園店」がオープンしました。

(甲子園球場南・阪神パーク隣 TEL 0798-48-5218)

(左)フォックスハーフコート(ブラック)  
(右)フォックスブルゾン(チャコールグレー)

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムラタ

さんちかレディースタウン／神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 (078)391-3886  
本社／神戸市中央区元町通6丁目7番8号 明邦ビル (078)341-8041代



*Merry Christmas*

*V*

*Happy New Year*

*1984 ~ 1985*

銀鱗をきらめかせて

青い海を舞う

マーメイド  
人魚のように…。

深く静かな女の魅力を。

クリスマス、お正月などのフォーマルドレスが  
揃っていますので是非お出かけ下さいませ。



クチュール&ブティック

**ワインザー**

山田 審紗子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目  
さんプラザ2F TEL (078) 331-7952

いいものは時代をこえて生き続けます

# ゴーフル



## 贈る心にお菓子をそえて

お歳暮には、お子様からご年配の方まで、どなたにも愛され続けているゴーフルをどうぞ。バラエティ一豊かな詰合せをご用意致しております。



神戸 風月堂

本社・神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎(078)331-5555



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の手帖です

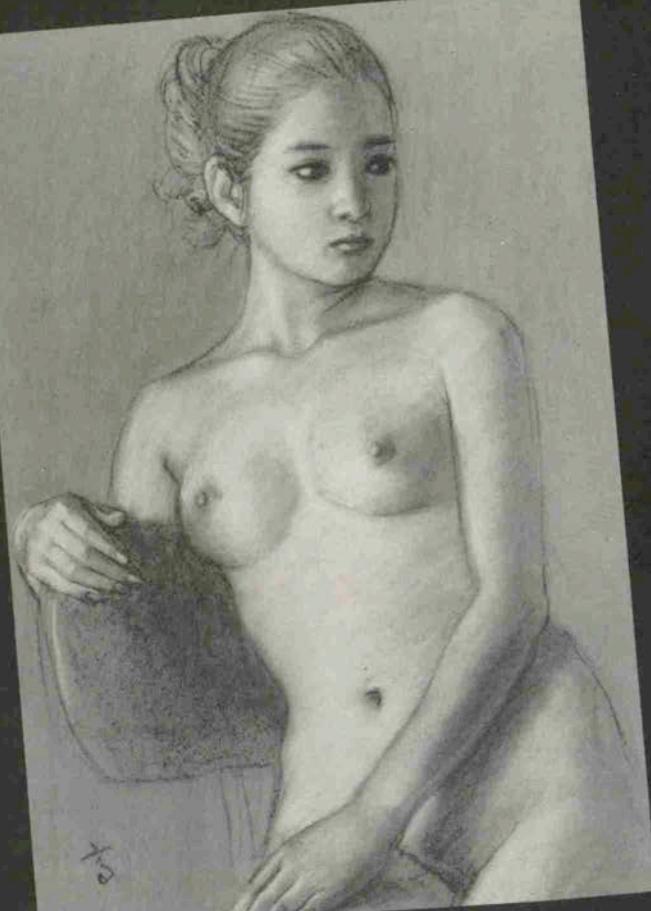
## 12月号目次 1984・No.284

- 表紙／小磯良平  
セカンドカバー／スケッチブックから 72／ヨーロッパを描く／西村 功  
9 神戸っ子'84／高田香里・西垣俊郎  
12 ある集い／芦竹会・長谷昭二郎  
15 コウベスナップ  
16 エトランゼの輪郭 34／藤田清照  
18 神戸の風色 60／堀内初太郎  
29 わたしの意見／柏原英通  
31 随想／小田 裕・日高君也・吉田量子  
34 随想・旅のかたち 2／安水稔和・カット 中西 勝  
36 こうべ味な旅 6／松山 猛・カット 石阪春生  
39 地域文化論(その64)／太田義人  
40 キャンペーン／対談 日中友好交流によって関西経済・文化の復権を  
47 経済ポケットジャーナル  
48 CINEMA特集  
I 映画発祥の地神戸に記念碑を建てたための座談会  
「メリケンパークに映画の記念碑を」  
50 II 白羽弥仁監督インタビュー 学生監督、自作「セビアタウン」を語る  
52 III 小栗康平監督インタビュー 「泥の河」から「伽倻子のために」を語る  
54 VI 深作欣二監督・松坂慶子・志穂美悦子が語る「上海パンスキング」  
57 第1回「神戸の新しい風景」フォトコンテスト入賞作品発表  
58 宝塚対談／内海重典＆権名由梨  
59 話題のひろば ①オール関西を励まし育てる会 大阪編  
②第7回美術家野球大会  
③ロースガーデン美術公募展表彰式  
66 珈琲を飲みながら／「芝居も食えなきゃ本物じゃない」太田タマコ VS 辰巳琢郎  
69 神戸の集いから  
70 KOBE LIVING TOMORROW 2／パートI「すまいと光」黒田公三  
72 ファッションレポート／フトアートギャラリー「アルカンシェル」を訪ねて  
76 ファッションスポット  
84 NEW MODE MARCHEN 82／藤原順子  
88 小山乃里子の華麗なるKOBE見てある記／神戸ジャズストリートをはしごして  
104 もうさんのHYOGO・WALK 8／マンガ・高橋 孟  
117 コーヒーフレイク  
118 動物園飼育日記 229／亀井一成  
122 元町キャンペーン(座談会)／木曜クラブ  
124 神戸を福祉の町に(132)／橋本 明  
126 有馬廻時記(12月)  
128 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳  
131 KFSニュース  
132 兵庫界隈記／ほんくら族 10周年のばか騒ぎ こじまのブコ  
134 ふらっしゅ・ぱっく(50)／淀川長治  
136 KOBE MODERN CULTURE  
138 コスモファンタジー／数1000回の明日こそ4／佐藤晴美  
145 びっといん  
146 百店会だより  
148 ポケットジャーナル  
152 小間三平の“神戸おもしろ風俗記”  
156 トラベルコーナー  
158 連載小説／薔薇の聲音 最終回 菊地佐紀／絵・池内 登  
178 連載エッセイ／風のファンタジア 12／吉村由美 絵・南 和好  
182 海船港／神戸港の歌ができた 神戸青年合唱団  
カメラ／米田定蔵・橋本英男・池田年夫・坂上正治・田村 康  
松下孝一・松原卓也・北方利明

目次作品／宮崎豊治「身辺モデル」



# 女、鼓動てますか。 いき



今回は2時間でらっくダウンの痩身美容。またはお肌の悩み(にきび・しみ・小じわ・かぶれ等)をお持ちの方のために、特にやさしいオリーブオイルのフェイシャル美容を、お一人様一回限り無料にてお試し頂けるよう企画致しました(神戸店のみ)

なお、ご来店の前には電話にてご予約下さい。

国鉄・阪神元町駅



コスメティックス神戸コーポレーション

札幌・仙台・浜谷・原宿・横浜・名古屋・京都・大阪・和歌山・神戸・広島・山口・徳島・高知・博多

コスメティックス神戸コーポレーション

神戸市中央区栄町通1-2-29 豊和ビル3・4F

無料体験シリーズ予約係 078-391-4077(代)

女。——それは変幻自在。高塚省吾／絵

業界で脚光を浴びている当社独自の痩身美容。エステティシャンが考え、素肌美だけを追求した“バニール美粧品”コスモボリタンシティ、神戸・元町を拠点に全国各地へ、次々とオリジナル・ブランドを発表。

お試し券

神戸つ子12月号

ファッションパークのクリスマス

11/23 Fri ~ 12/25 Tue



ショッピングは、楽しみである。

リザ・サロン

ゲルラン

ベンチ

東京屋

Caro's

新宿・高野

VICTOIRE

BONフカヤ

ダイアナ

ココ山岡

サイズショップダイアナ

ブランコ

ルベール II

ホットマン

ランプ

三愛

**FASHION  
PARK**

神戸・三宮(さんプラザ・センター・プラザ)

**3F**

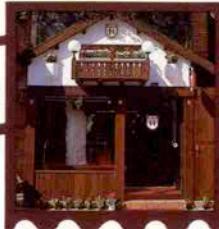
電話078(332)1698

営業時間 A.M11:00 ~ P.M8:00

12月は休まず営業いたします。



ケーキ おいしい



家庭にしあわせ

板宿で一流の味との出会い



スイス菓子  
ハイジ 板宿店  
10月25日オープン!



**LIC** LOOK  
INFORMATION CONSULTANT 株式会社エルアイシー

商業店舗不動産コンサルタント

代表取締役 青木 幸夫

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1

ポートアイランド 国際交流会館 7F

PHONE (078) 302-4009 (代表)

**LOOKS** 株式会社 ルックファイブ

——人はこころ 店もこころ——

商業店舗・企画・設計・施工

代表取締役 村上 健

〒653 神戸市長田区西尻戻町3丁目1-24

PHONE 078 (641) 8451 (代表)

☆私の意見

# “山”と“海”に

## 開け行く

### 21世紀の神戸

柏原 英通

△神戸市開発局長



開発局の担当は神戸の“山”と“海”。現在進行中のプロジェクトは、山側は西神地域の開発、海側としては目下埋立て中の六甲アイランドが“目玉”ですね。

西神地域は、文字通りのニュータウンです。その概要を申しますと、神戸総合運動公園は、ご承知通り、来年夏に開かれるユニバーシアード<sup>85</sup>神戸大会のメイン会場。研究学園都市は、研究施設と教育施設とを合わせもつ住宅団地で、人口は二万人の予定です。神戸外大、神戸商大の他、二、三の大学・短大の誘致が決っています。

現在、一八〇〇世帯、六三〇〇人が住んでおられる西神住宅団地の将来人口は六七〇〇〇人。毎年、一万人以上の人口増を見込んでいます。

西神地域は、“住み、働き、学び、憩う”新しい街。“働く”西神工業団地は住宅団地に隣接し、一二七社が進出、すでに六十八社が稼動中です。住宅第二団地の北には、第二工業団地が出来ます。先のが西神IP／インダストリアルパーク／というのに対し、こちらは神戸IP／ハイテクパーク。情報機器や電子工学などこれまでの神戸にない新産業を誘致したいと思っています。

一方、六甲アイランドは、六十パーセントの造成が終わり、すでにフェリーも発着し、食品関係の工場も稼動しています。ポートアイランドと同じように、中心部に一二〇ヘクタールほどの都市機能用地を計画中です。

基本理念としては、CATVに代表される情報機能を中心とした企業を誘致し、さらに国際性をもつ施設、関西新空港に対応するエーカーゴターミナルなども考えています。もちろん、住宅地区もあり、三万人の人口を予定しています。これは夢の段階ですが、六甲アイランドでは水をうまく利用して、例えば水路を走らせたり、人工渚をつくつたりというように、水に親しめる街にしたいと考えています。

西神地域も六甲アイランドも、街として完成した姿を表わすのは昭和六十五年頃の予定。神戸の顔も二十一世紀へ向って変りつつあるといえます。

（談）

*Merry Christmas!*

*Most Beautiful Quality Life*

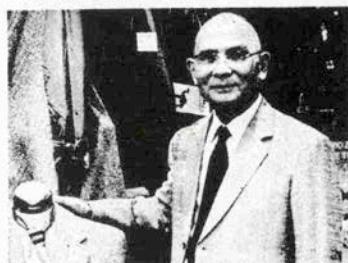


創業明治十六年

金 柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 TEL.(078)341-0693  
大阪・高麗橋2丁目 TEL.(06) 231-2106

ハイセンスな紳士服で  
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 TEL.(078) 341-7290

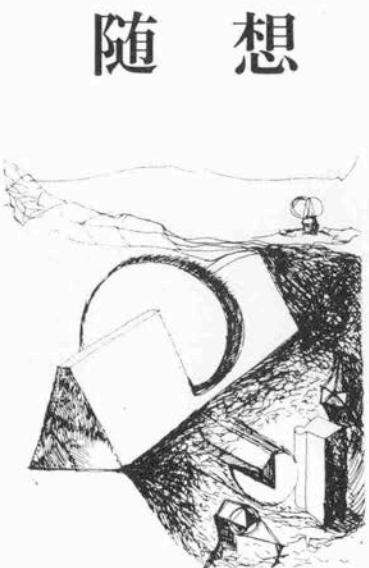


須磨離宮現代彫刻展表彰式にて、宮崎市長と河北倫明京都国立近代美術館長（筆者左端）

N君へ  
—N君への手紙—  
『彫刻の中の風景』  
小田 裏  
▲彫刻家▽

N君、貴方はもう御覧になつた  
でしょうか。野外展のメッカである須磨の彫刻展を。正確には神戸須磨離宮公園第9回現代彫刻展と言う名前で、一九六八年から開催され、ピエンナーレですから十六年も続いている日本でも大規模な彫刻の野外展示です。貴方は彫刻とは本来太陽の下でこそ立体芸術の魅力を發揮するものだから、あの美しい海が望める高台の緑の中の離宮公園では、それぞれの素材とフォルムが周囲の環境と交わりながら、いくつもの詩を形造っているとおっしゃるでしょう。たしかに、あの広い緑のジャーテンの如き芝生と噴水の変化があるのも並んでいて、全部で十八

—N君への手紙—  
『彫刻の中の風景』  
小田 裏  
▲彫刻家▽



カット／小田 裏

点の現代彫刻はすばらしい表情を見せていました。

ところで、彫刻が人体と言ふテラマをはなれて、人間の内的世界、あるいは一つの宇宙、または素材による構築を示し、やがて新しい空間の模索を始めたのはいつごろからだったのでしょうか。歴史の中で形造られた幾多の人体像の数々は想像することは出来ても一つにそれを誰も見ることは出来ないと思います。貴方も僕も人間ですが、人とは一体何なのでしょうか。昔から何人かの彫刻家が、人体を刻みながらそう思い続けたのでしょうか……。僕は、もう一つの疑問、歴史の中で人体像がこんなに沢山彫刻されながら、それを不思議と思わない不思議を感じた時、自分が人体像を別の角度——いわば、それを世界の一部として捉える方向に歩み出していったようです。世の中には自然も含めいろいろなものが存在し、人がつくり上げたものは、大抵形と機能性とが結びついています。コップは水を、車は自動で働き、オートモビルと呼ばれたり、紐は結ばれるために。ところが抽象的なものであれ人体像であれ彫刻と言う名の物体は、それ自身何の機能性がないうに見えます。ただ精神的、あるいは心理的な効用がその構造と素材によって示されようとして

## キヤラクター作りについて

日高 君世



△漫画スタジオ漫協▽

ちまたで、「キヤラクター」と、よく言われているものを、私は作っている。キヤラクターと何ぞや? 簡単に言えば、ミツキーマウスとか、スヌーピー等である。

よく人に

「キヤラクターは、どうやつで生きのですか?」と聞かれる。

仕事(たとえば、新キヤラクターを作るぞ!)と言つて、机にむかつていたらできるわけではない。それでは、遊んでいたら、できる! と書きたいのだが、遊んでいる時は、当然、遊びに熱中しているので、できるわけがない。

じやいつ? ……いつもという訳じゃないが、友人らとただ話をしている時が一番、その他は一人でボーッとしている時である。

私の入っている「漫協」というグループには、他にもキヤラクターを創っている人がいる。それぞれのキヤラクターは、元の英語の意味通り、作る本人の性格を、暗示している。私の場合、なぜか創るキャラクターに耳が付かない。

いるだけです。ですから、彫刻作品は、パーソナルなイメージを源に持ち、遠くまで行こうとする芸術だから現代では最もゆっくり歩む思想だと貴方は笑いながら言うかも知れません。

今年の夏は日本中そうであったように、僕の世田谷のアトリエもまた、へんな暑さでした。単純化された美しい曲面を求めて春先から制作を始めましたが、ちょうど内部構造の熔接作業の時に夏に入り、アトリエは三十八度、作品の内部では火を用いると四十五度以上にもなったものです。

とまれ、「風景船」と命名されたステンレスの作品は周囲に貴方も含めた通りすぎる風景を映しながら東京から神戸に、それから一つの未来に出発したようですね。そして、人は誰でも自分の風景を持つてはいるのでしょうか。忘れ得ない一つの景色、記憶の中いろいろ思い浮んでくるいくつもの情景、時間の中を通っていくそれぞれの想いが交叉する光景……イメージは結ばれたり離れたりしながら感覚的にある領界を創ると思われてなりません。

過去、現在、未来——約束することの出来ない多くのものとの出会いと別れが存在する流れの中に人生があるのかも知れないと考えたりするのです。



私に名前をつけて

たとえ人間を書いてでも耳はない。友人達は、それを「聞く耳持たない、キヤラクター」と呼んでいる。

また、多くの人が良いと言うキヤラクターは、創る人が、そのキヤラクターについて良く解っているのである。——それはどういうことか? たとえば、野菜のキヤラクターを創れる人は野菜が好きなのだ。そして野菜 자체を、端から見れば怖い程、理解しているのである。ネコなら、ネコをよく見、愛しているのである。

ちなみに、私のキヤラクターで、たまたま有名なものに、「わしもそう思う博士」がある。これは、新聞にも、付和雷同の主体性のないキヤラクターとして紹介されている。すなわち、作者の主体性のなさが出ていているのである? ところで、実は、この原稿書きなおしているのだ。最初は、クソ真面

のキャラクターは、どうやつで生きのですか?」と聞かれる。

仕事(たとえば、新キヤラクターを作るぞ!)と言つて、机にむかつていたらできるわけではない。それでは、遊んでいたら、できる! と書きたいのだが、遊んでいる時は、当然、遊びに熱中しているので、できるわけがない。

じやいつ? ……いつもという訳じゃないが、友人らとただ話をしている時が一番、その他は一人でボーッとしている時である。

私の入っている「漫協」というグループには、他にもキヤラクターを創っている人がいる。それぞれのキヤラクターは、元の英語の意味通り、作る本人の性格を、暗示している。私の場合、なぜか創るキャラクターに耳が付かない。

目な人とのコミュニケーションについて書いていたのだが、まわりの人にあなたらしいとか、キャラクターのことを知りたいとか言わると、この付和雷同の精神が頭をもたげてする。この原稿を書いてるのである。

話を元へもどして、他の私のキャラクターは、怪物や動物が多い。口の悪い友人などは、「怪物をよく理解しているはずよね、怪物が2本足で立ったようなんだもんね」「それは言えどる」と失礼な冗談を平気で言っている。ちなみにその友人の作るキャラクターは全部・タ体形である。どうもキャラクターを作っていると、自分(?)が見えてくるようである。

今、書き終ろうと思ったが、最後に一つ、今回の神戸つ子に出したカラスのカットで、私は一つ自分に理解を深めました。どうやら、おしゃべりについても、少し理解しているようである。

□カラスの名前、公募中です。いい名前をつけてやって下さい。書(三四一)七五三七まで

## 有吉佐和子さんと の出逢い

吉田 量子

（著者オーナー）

私が丸尾長顕

先生の門下生で

あった、昭和三

十六年頃の話で



ある。東京は四谷三丁目の細い路地を入った所に、ドームという屋号の小さなスタンドがあった。作家や歌舞伎役者、若い芸能関係の連中が屯るする店で、客達は仲間意識が強く、家庭的な雰囲気のする店だった。その日は確か、小雨の降る秋口。十人程入ると満席になるこの店に、男女の先客があつた。こんな場所に不似合なぐらい地味な一人の女性。当時、才女作家として、その名を欲しいままにしていた、作家の有吉佐和子さん、その人である。その日私は譜面の打ち合せでこの店にやって来て、ピアノの先生を待っていた。

たまたま隣り合せになつた有吉さんを、そこのママに紹介され、それが縁で、お知り合いになつた。確か、日本フィルハーモニーのフルート奏者でいらっしゃる鈴木さんが、有吉さんと御一緒であつたはずだが、その時の有吉さんのお話を、あまりにも印象的であったので、今でもはっきりと覚えてい

る。

「私って随分散文的な女なのよね。だつてさ、彼が、今度帰国したら、僕とふぐ茶漬食べててくれるかいって言つたのね。あら、私は茶漬なら好きだけど、ふぐ茶漬なんて大嫌いって言つてしまつたけど、彼は、朝食を共にしてくれるかと言う事だったのよ。私ふぐ

つて聞いただけでだめなのよね。彼にすりやあ、さけでもふぐでも、どちらでもいいのよ。言つた後で、しまつたと思つたけど、失敗よね。あれは彼特有のプロポーズだったのよ。私って本当にだめなのよね』

この時のお話は、これで終つているのだが、この話を聞いていて、随分照れ屋さんなのだなあと感じたものだ。漏れ聞く所によると、当時、婚約を解消されたらしいが、その二、三年後には、神彰氏と結婚されている。あの話は、後悔された話なのか、それとも、お惚気であったのだろうか？

以前、私が出演していた楽屋に尋ねて下さつた事があつて、随分恐縮した事があつた。東京と言つて、堺堀の中で、青春を精いっぱいに生きていた当時、そんなに豊でない心の隙間を、その頃の有名作家が、通りすがりとは言え、わざわざ立寄つて下さり、大変嬉しい思いをさせてもらった。そして、なんとさりげなく、さわやかな方であろうかと、女ざかりでいらっしゃたあの頃、

「私って、随分散文的な女なのよね」

やや早口の、ちょっと鼻にかかる甲高い声が、今も懐かしく、この耳に深く残つてゐる。

どうぞ、安らかに……合掌。

随想

旅のかたち

（2）

## 乗

## 物

安水稔和  
絵／中西勝

とっぷりと日が暮れてから海沿いの寒村のバス停で飛び乗ったバスは闇のなかを遙れに遙れて走る。乗客はまばら。それも止るたびに降りる。姿を消す。一番うしろの座席に坐りこんで私は揺れている。窓ガラスの外の闇を白いものが激しい勢いで飛び去る。震動が止み最後の乗客が降りていったあと、道はのぼりにかかったらしい。バスは身ぶるいして闇へ突つこんでいく。

一人取り残された車内。車内灯のわずかの明かりにかすんで震えている冷えた湿った空気。そのむこうにぽつんと見える運転手の黒い帽子。ひょつとして、あれは帽子だけ。濡れた靴のなかの凍りついた足指をそつと動かしてみる。思ひだしたよう、湿った煙草を取り出してくわえる。かじかんだ指で湿ったマッチを擦る。うす暗い空気がほおと明らかに。明滅が窓ガラスに映つている。激しく震えている。

ふと、笑いがこみあげてくる。さつき降りた最後の乗客の言葉。「この冷えるのに、ごくろうなことです。」それからバスを待つあいだ裏の風呂のたき口で火にあたらせてもらったときの雑貨屋のおかみさんの言葉。「ほんに、ものすきだのう。」バスは雪の峠を越えることあたわす。別の道を迂回しているらしい。さて、どこへ。雪の山路を

いつたいどこへ。ごくろうなことです。ものすきなことです。窓ガラスも砕けんばかり、バスは激しく遙れて闇のなかへ降りはじめた。

昼すぎに駅前のバスターミナルで飛び乗ると、バスは走りに走る。雪の原を突つ走る。真冬の湖を見たいとおもい。真冬に行けるはずはないとおもい。それがなんと、湖行のバスをみつけたのだ。それで飛び乗ったのだが、はたして湖まで連れていくてくれるかどうか。

雪の原走りつづけて、やつと雪に埋もれた町に入つて一服。ここで乗客の半が下車。家々の黒い柱。道の黒い雪。道行く人の黒い衣服。

それからまた走り出す。乗客数人。雪の原へ出て、傾きはじめた太陽を追いかけるように、しだいに台地へ、そして川筋をさかのぼる。山ぎわの人家の影を見すてて見すてて分け入る。

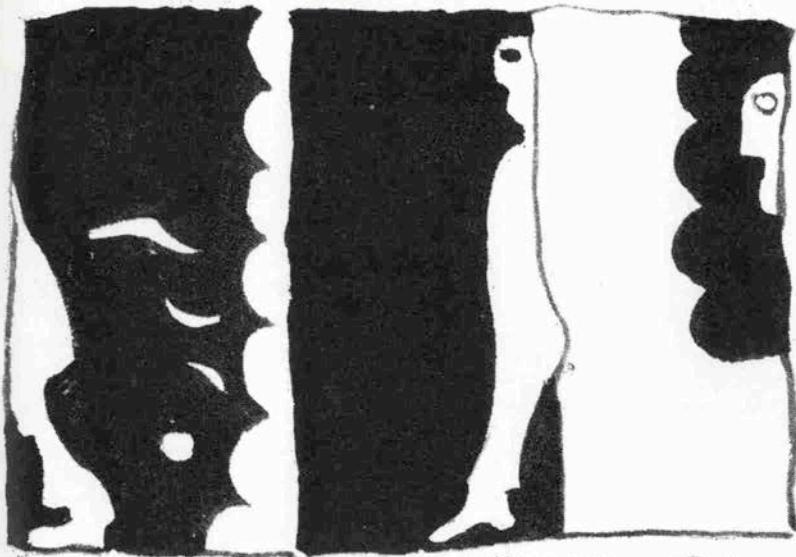
夕闇がしのび寄るころ、狭い谷あいに入つていく。凍りついた白い樹々のしたをくぐり抜けていくと、うす暗い谷の両側に滝があらわれた。飛び散るようすに凍つた白い花のような滝。閉じこめる白い樹間に次々とあらわれた。息を呑む。

雪と氷の谷を抜けると、湖があらわれた。バス

は小休止。風と波の打ち寄せる湖岸には氷が逆立つて牙のように並び立つ。そのむこうの荒涼とした湖。見る間に色変える空。そして闇へ帰る水。濡れるのも忘れて見入る。茫然。

バスはすっかり暗くなつた湖岸を雪蹴散らして走り出す。バスはたしかに真冬の湖に連れてきてくれた。窓の外のあの闇が湖だ。さて、これからどうなる。今夜はどうなるのかな。

乗物は目的地へ到着するための手段であるのだ



が、そうとばかりはいいきれない。乗物自体が旅なのだと、おもいかえして考えている。夜行列車。連絡船。通勤電車でさえ考えようによつては。古めかしいバスの話が二つづいたので、こんどは列車の話をしよう。これも古い話、汽車といったほうがいい頃のことだが。

やつて来た列車に乗る。何日までに帰らないといけないというわけではない。といつて、あちこち回る気はもう失せた。一週間走り回つた旅の果て。今は座席に身をゆだねて流れをくだるように帰るばかりである。

やつて来た列車に乗り。気がむいたところで下車して。気がむいたときにまた乗つて。腰が痛くなれば下車してひと休み。陽が落ちれば下車して一泊。

列車は乗客をいっぱい吸いこむ。飛び交う人の声。人いきれで眼鏡が曇る。かとおもうと、どつと吐き出す。がらんとした車内。露出過度のフィルムのような窓外の風景。きちんと座つたり。前に足を投げ出したり。靴を脱いで座りこんだり。誰もいなくなると横になつたり。

山の形が変わる。海の波いつまでも。町を抜け。川を渡り。腰の曲つたおばあさんにみかんもらつたり。はにかむ少女に話しかけたり。ウイスキーなめなめ。やがてあらわれるわが街神戸まで。日常ではない別の時間のながをゆつくりと流れる。

## ● こうべ味な旅⑥

ビーフィーター

## A-1から 肉喰いの原点は

松山 猛（エッセイズ）  
カツト・石阪春生

はじめて神戸に行つたのは、まだ昭和二十年代で、僕はまだ小学校にあがつていなかつたから、おそらく二十七、八年頃。

父親の商用のお供をして、国鉄に乗つて行つた。

当時は、小型三輪車のタクシーがあり、三宮駅前から父の得意先へ、それに乗つて行つた。料金は60円くらいだつたと思う。

その頃ちょうど、戦後初の一万トン・タンカーができたというので、父は『つばめ丸』という、そ

のタンカーに連れて行つてくれた。見上げるよう大きな船を、僕は生まれてはじめて見た。しかも父はタラップをどんどんと登つて行くのである。

どんなコネクションがあつたものか、僕らは船内を案内してもらえた。まだ船内の艤装の最中だったが、巨大な吹抜けの機関室への細く狭い階段を降りると、エンジンのガンガンという回転音と、無数のパイプ類の熱さに僕は仰天して、多分べそ

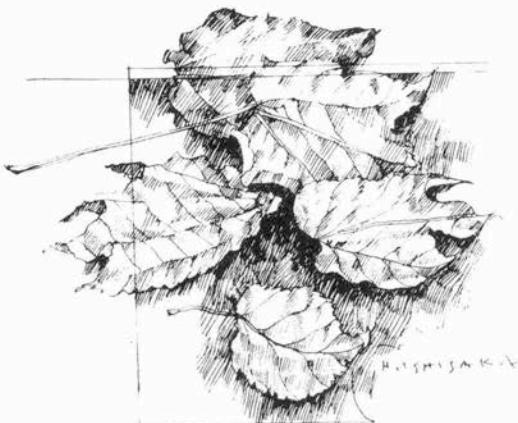
をかいたにちがいない。

だから神戸は、僕にとって、決定的にエキゾチシズムを植え付けたのである。その最初の出合いから。

その神戸へ、よく行くようになつたのは、高校生になつた頃からだ。アルバイトで得た自由に使えるお金を持って出かけるようになつた。高架下には、アメリカの珍らしいファッションがあり、靴もまた安かつたから。

あの頃だから、明石焼とかドンクのサンドイッチなどが、僕の神戸的なごちそうだつた。

当時、明石焼きは京都では食べさせる店が多く、面白がつて食べた。あの、ぶわんとした歯ざわりと、薄味のダシが、えもいわれずおいしかつた。なにしろ高架下から北野町とすいぶん歩きまわつた後なので、空腹の度合もすごかつたのだ。やがてA-1をだれかに教えてもらつた。東門



筋の方から、神社の境内を抜けたあたりの、カウンターになつてゐる店。鉄皿にのせられ、まだ大きな音をたてて焼けているステーキは、本当においしかった。もともと肉好きだったのが、よけいに開眼してしまつたのである。

そののち、もつと気取つたステーキの店をいろいろ知つたが、僕にはA-1が、肉喰いの原点である。神戸へ行くと、つい立寄つてしまう。

布引の公団アパートに、友だちが住んでいた時期があり、その頃は宿代がかからなかつたから、東京から京都、神戸へとよく遊んだ。東門筋のバー、デュボネが僕らの溜り場だつたから、A-1へもよく行つたのだ。東門筋と言えば、何軒かある古道具屋で、大きなオルゴールを見つけたことがあつた。

置一枚ほどある大型の物で、店に置いておいても邪魔になつてしまつたが、安くするから持つて行け、というのだが、ふと考えてみると、本人ですら身の置場に困つてゐるのに、巨大なオルゴールなど、どこに置けばよいのか。

おそらく戦前に、船に積まれて神戸にやつてきたはずのオルゴールだつた。そのような物があるのも、やはり神戸ならではのことだ。

さて、僕ら仲間は、南京町にもよく出かけた。

僕のひいきは民生飯店と楽園酒家。これは今でも変わらない。民生飯店には、肉の厚い紋甲イカの天ぷらがあるが、あれは絶品である。しかしひと頃、イカや海老のコレステロールまで悪役扱いをされた時期があつて、しばらく食べなかつた。最近ではイカのコレステロールは良質であるとされたが、あの頃がまんしたのが腹だたしい。

なによれ、食べること、飲むこと、これをおいしく感じられるあいだは健康なのだと、最近は思う。自分の体が求めている物を、おいしくいただければよろしいのである。

樂園酒家は、さっぱりとした味付けで、鶏肉と青菜を煮込んだ麺などがよろしい。老酒のオンザローツクスを片手に、ふうふうと言いながら、熱い麵をいただく。季節であれば蟹の料理もよろしかろう。

神戸はやはり、贅沢な土地である。ほどよい大きさの都市なのに、びっしりと旨い物を食べさせる店にあふれていて、そして買物の楽しみもある。そのくせ、ちょっと走れば郊外の風景がある。古くからインターなショナルな性格を持つてきら、洒落て暮すのにはもつて来いだ。会員制のコヒー店なんて、他の街では考えられぬ。良いとか悪いとかではなく、やはり神戸という都市のサブ文化が、生み落した風景なのかなと思う。

ただひとつ残念なのは、北野町の精神的な風化だ。昔はひつそりと美しいたずまいだつたが、このごろはクレープやらアイスクリームを持つた軍団に占領されちまつた。シャツにべつたり、アイスクリームをくつつけられる怖れを抱きつつ、あの道を歩かなくてはならなくなつた。

キスマーケは家庭に不協和音をもたらし、アイス・マークは、シャツをだいなしにしてしまう魔である。



#### △著者紹介△

一九四六年、京都生まれ。グラフィック・デザイナー出身。「帰つて来たヨーバライ」の作詞で有名になり、フリーランス編集者として平凡パンチ、ボボイ、ブルータス等多くの手がけている。CFのプロデュースなど多方面で活躍している。

わが家の小さな恋人も…

Merry Christmas イヴは主役。

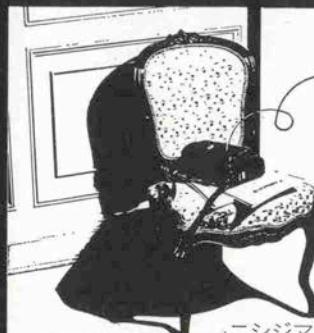


北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市中央区神内町1-8 TEL. 221-1164

バッグ・帽子も洗えます。

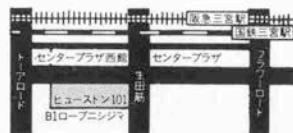


手にもつバッグは  
手アカで  
汚れています。  
一度ニシジマで  
リフレッシュして  
みませんか。

ニシジマにご相談ください。



- サービス内容 ●
- 型くずれの防止
- 素材感の回復
- お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成
- ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号  
ヒューストン101 (078)332-2440

# 我々の 太田 義人 『邯鄲の夢』

△歴史学研究家△

ある日盧生は旅先で、呂翁といふ道士に出会った。黍が蒸し上がるまでの一時に、彼が出身出世の志を語り始めると、道士は手荷物の中から青磁の枕を取り出し、彼に進めた。その枕で眠れば、榮耀に進めた。その枕で眠れば、榮耀華、思いのままというのである。早速、枕に頭をあずけようとした

彼は、枕の端に小さな穴があいているのに気づいた。覗いてみると、中は明るく、全くの別天地がひらけている。そこで、彼は身をかがめ、枕中に入つてみた。その世界で、彼は、たちまち中書令から燕国公へと榮達を遂げ、富貴を為し、子宝に恵まれ、齢八十の長寿を全うした。その時、目醒めた彼は、なんと、未だ黍が蒸し上がってないことを知り、人生の短かくはないことを悟つたのである。

有名な故事なので、御存知の方

も多いだろうが、この話は、唐の传奇『枕中記』にある「邯鄲の夢」である。「一炊の夢」ともいわれ、人生のはかなさを我々に教えていふ。しかし、道士呂翁は盧生に榮華榮達のはかなさを悟らせたにせよ、盧生の夢を叶えさせてもいるのである。

人間は誰しも現世の利益や不老長生を乞い願うものであるが、古来、中国では、道教が、子宝・蓄財・長寿の福禄寿をはじめとして、人々の祈願を成就するものとして、広く信仰されてきた。この話では、道士呂翁は、枕中の幻の世界へと盧生を誘い、彼の望みを叶えさせた。このような外界から閉じられた小世界のパラダイスを「洞天福地」というのだそうである。この盧生のように、道士の方術にあずかり、たとえ幻でも、一時の榮達の夢に酔つてみたいというのが、我々にとつても、一つの願望なのではないだろうか。

道士には会えないにしろ、そんな空るな夢想にひたることのできぬ場所が、神戸には花隈、中山手通りにある。蜀漢を建国した劉備に武将として仕えた、関羽を祀る「関帝廟」がそれである。元来は

武神であるため、孔子廟が文廟と称されるのに対し、武廟と呼ばれている。道教では、関帝は伏魔大帝ともいわれ、地獄の有力な神とされており、その怒りにふれると、雷にうたれて死ぬと信じられている。しかし、同時に、庶民の間では老爺と親しまれ、財神として信仰されてきた。また同業者組合などの守護神としても、ひろく祀られてきた。

中華民国38年（一九四九年）に創立された、神戸の「關帝廟」は、住宅地の静かな佇まいの中にあります。境内には、木々の緑に、朱と金銀の色彩が燐然と輝く世界がひろがつてゐる。金亭と称する紙錢の焼却場で金紙・銀紙を焼き、関帝に賽錢を献上した後、簡に入った竹軸を一本選り出し、靈籤を引く。そして、「忠義仁勇關聖帝君」の小垂幕が下がつた祭壇に跪き、一心に願い事を念じ乍ら、一対になつた三日月形の小木片を放り投げ、籤の可否を問う。こんな姿を、台北市を訪れた折「關帝廟」や他の道教寺院でよく見かけたが、神戸では滅多に見られない。境内も静寂につつまれてゐる。

我々は、これまで、「脱亞入歐」をスローガンに、西洋文明をモデルとして、科学性と合理性を追求してきた。そして、港町神戸も、西洋への憧れをかりたて、ハイカラな街とされてきた。しかし、アジアの一員である我々にとつて、この「關帝廟」は東洋文化を再認識する場となりはしないだろ



「邯鄲の夢」を想わせる…關帝廟